

小笠原諸島ネズミ対策経緯検証のための座談会 要旨

日 時：2015年8月27日 19:05～20:56

場 所：小笠原ビジターセンター、自然環境研究センター（東京）

参加者：環境省、関係行政機関、地域連絡会議構成団体、当時の兄島の現場関係者、自然環境研究センター

1. 本座談会の開催趣旨

過去のネズミ対策事業の検証を開始するに当たり、第1回検証委員会前に地域の一部の方に、事前ヒアリングを実施し、様々な指摘をいただいた。特に「検証の進め方」については、信頼を回復するためのプロセスが必要であることが重要だと認識した。

そこで、過去の事業の進め方や、意思決定プロセスの経緯の検証の一環として、本座談会を設定する（環境影響評価については、実証実験の結果を踏まえて検証を進める）。具体的には、これまでの指摘事項に対して、どのように改善・対応したかを整理し、地域の信頼を回復する上で、さらに改善すべきポイントはどこかを洗い出す。この作業により、地域と協働した事業の在り方を構築することを目的とし、意見交換を行った。

2. 結果概要

（1）指摘に対する環境省の改善・対応状況（説明）

これまでの指摘に対する環境省の改善と今後の対応の考え方について、以下の2つに集約した。

地域を巻き込んだ事業の推進

目的・必要性の伝わり方が不十分であった点の改善、対策の計画立案段階からの地域の参画、検討プロセスの不透明さの改善、住民参加型のプログラムの実施などが必要と考えた。

これまでに「講演会・住民説明会での目的・事業の必要性が伝わるようなプレゼンの工夫」、兄島等の視察会の開催、地域と協働した事業の計画立案などの改善に努めてきた。今後の予定として、今後の予定として、住民参加型のアイデアを、環境省だけで考えるのではなく、地域を巻き込んで考えていけるようワークショップ形式で検討していきたい。

目標の設定

「属島へのネズミの再侵入リスクが指摘される中で、有人島のネズミ対策をどうしていくのか」、「それが見えないまま、根絶かコントロールかの目標設定が不明確なままで、緊急対策を繰り返すのか」の答えが問われており、根本的には、長期的なプラン、将来目標が不明確であることが問題の本質だと考えている。陸産貝類の保全、ネズミ対策にかぎらず、管理機関が作成する世界自然遺産管理計画やアクションプランの改訂等において再検討していきたい。

また、の通り、この検討を地域と協働で進められるようにしたい。

(2) 意見交換における主な意見

- データの間違いはきっかけではあったが、検証を開始すると、環境影響や地域との合意形成など、いろんな問題点があったことが露呈した。今後、信頼回復に努めるには、公共事業がどのように進められているか見えていることが重要。
- 情報共有は、事業内容が決定した段階で行うのではなく、段階を踏んで知らせるべき。村民だより、情報センターだより、小笠原村自主放送などをツールとして、伝えていけばよい。
- 村民と行政とで共通の目標設定をする。行政の事情で目標設定を低くされると、全てが止まってしまうので、根絶を目指す場合に、クリアしなければならないポイントやリスクの共有と解決方法、段階を踏んだ目標設定などを議論できればよい。そのために、ワークショップを開催する。